

1. 海外入試を考えたきっかけと、準備・方法など

私が高校一年生の時に海外入試を考え始めたきっかけは主に2つあります。1つ目は日本の大学が自分には合っていないと感じたことです。一発試験に重きを置く入試のスタイルや、情報の暗記や一方的な講義中心の学習方法は、私が個人的に思う「学び」の形とはかけ離れていました。また「大学時代はサークルやバイトをして遊ぶ期間」という一般的な考え方にも反対でした(今も反対です!)もちろん、日本でも一生懸命、勉強や課外活動に取り組んでいる人はたくさんいます。また、アメリカでもパーティーばかりして不真面目な学生はたくさんいます。でも高校1年生の頃の私はそういった事情をよく知らなかったの、日本の大学生に対するステレオタイプに影響されていました。

留学を志した2つ目の理由は、自分の見ている世界のちっぽけさに気づき、もっと広い世界を見たかったからです。私は高校1年生の夏休みに、アルペンスキーの合宿でニュージーランドに行きました。そこで偶然、カリフォルニアから留学をしている「13歳」の大学生に出会ったのです。日本にいたら想像もできないような逸材です。彼と話したのはスキー場のリフトの上で10~15分足らずでしたが、この出会いが衝撃的すぎて、もうスキーどころではありませんでした。自分がどれほど井の中の蛙であったかを思い知り、できるだけ早く世界をみたいと思いました。このまま日本にいては自分の将来はもうお先真っ暗になってしまう、という恐怖すら感じていました。少し大きさに聞こえるかもしれませんが、このニュージーランドでの衝撃的な出来事が私の人生を大きく変えてくれました。

海外進学準備については、一番影響力があったのは、高校2年の夏から3年の6月までアメリカで1年間交換留学をしたことだと思います。理由は、自分の英語力が海外進学のためにはあまりにも足りなかったからと、日本で受験対策の授業を受け続けるのが辛かったからです。海外進学準備は帰国して、高校3年生の1学期の期末試験後から本格的に始めました。アメリカの進学はAO入試になんとか似ていて、その人をあらゆる方面から評価します。高校の成績、センターのような共通試験の点数、TOELF、課外活動の実績、推薦状、面接、エッセイ、など提出書類はたくさんあります。だから、塾に毎日通って勉強ばかりしている人は、テストの点数が良くても一流大学に合格するのは難しいし、勉強が多少苦手でもオリンピックレベルのアスリートであれば名門大学からのオファーが来たりします。ただし、可否は大学のアドミッションオフィサーの主観に委ねられるので、賛否両論あります。私は個人的に、受験のプロセスそのものが成長の機会になったと感じています。もちろんストレスも多かったですが、とても楽しかったです。

準備に関しては、海外進学の塾でTOEFL等の試験対策をしたり、個人的な知り合いにエッセイの添削してもらったりしました。また出願は担任の先生がネット上で行わなければいけないので、英語でお互いよく分からないサイトを先生と一緒に解説したのも良い思い出です(笑)もう少しロングタームの準備でいうと、自分の大好きな課外活動に本気で取り組むこと(私の場合はスキーや文化祭)、学校の勉強をきちんとやって良い成績をキープすること、推薦状を書いてくれるような先生たちと良い関係を築いておくこと、だと思います。

海外進学についての情報は「留学フェロウシップ」というNPO/学生団体が詳しくまとめているので、ぜひ自分で調べてみてください。

リンク: <http://ryu-fellow.org/navi/america/america.html>

2. 大学生生活の紹介(特に日本との違いを)

今回は、アメリカの大学生生活の違いを「学生、寮生活、授業、課外活動」の4点から紹介したいと思います。

まず1点目は、学生の多様性です。アメリカの大学は入試の時点で多様性のある学校を作るために、ユニークなバックグラウンドの学生を意図的に選抜しています。例えば、貧困家庭出身や有色人種の学生、田舎の公立校出身、などです。また、私のように、帰国子女でない日本の普通の高校出身者は珍しいため、受験に有利になったりするのです。私の大学は白人が70%と多めですが、それでも日本の大学に比べたら大きな違いだと思います。また経済的なバックグラウンドも様々です。IKEAのCEOや国連大使の子供がいれば、キューバ人の移民で逮捕歴のある親を持つ子もいます。LGBTQの学生もたくさんいるし、宗教観も様々です。このような環境下では、日々の生活の中でも全く違う価値観に触れることができるので、学びの機会がたくさんあります。

2点目は寮生活です。私の大学は首都圏の出身者では想像もできないくらいに田舎にあって、生徒全員がキャンパス内の寮に住んでいます。食事は3食大学内の食堂ですし、授業を受ける建物は部屋から徒歩5分以内にあります。保護者抜きで友達と暮らすのはもちろん楽しいけれど、その分責任も伴います。日本と違って、外の世界と触れ合う機会がほとんどないので勉強には集中できますが、実際の社会生活を忘れるという欠点もあります。

3点目は課外活動についてです。前述した通り、学生生活の99.9%がキャンパス内に集中しているので課外活動もその影響を受けます。田舎すぎて何もすることがないと心配する人が多いのですが、200近くあるクラブがいろんなイベントを企画してくれるので、東京にいるよりも忙しかったりします。また日本のサークルと全く違うのは、初心者お断りのクラブが多いことです。ダンスやアカペラ、オーケストラなどは倍率10倍くらいのオーディションがあって、大学前に相当な経験を積んでいないと入れません。逆にトライアウトがないスポーツチームなどはものすごく人数が多くて、「コミュニティ」という感覚を得づらいのが実情です。またアメリカのスポーツはシーズンごとに短期で活動をするので、通年で活動を続ける日本の運動部に比べると、生徒間のつながりが薄くなりがちです。私自身もオーディションに落ちて自分のやりたい課外活動ができなかったのは大変苦しい経験でしたが、文化の違いとして受け入れるようにしました。

4点目は授業/勉強についてです。総合大学と私が通うリベラルアーツカレッジでは事情が違うので、今回は私の通う大学の話をします。アメリカの多くの大学は学部を決めるのが2年生の終わりなので、それまで自分が本当にやりたい勉強を探すことができます(この間に受ける授業は日本の一般教養とは全く違います!!)また私の大学は、必修の授業がない"open curriculum"という制度を持っているので、自分が好きな勉強だけをやれるのも素晴らしいと思います。授業は少人数で、今学期一番大きいクラスは24人しか生徒がいません。私の友達は4人しかいないクラスをとっている人も複数います。人数が少ないので教授はひとりひとりの生徒をきちんと覚えてくれるし、授業もディスカッション中心でインタラクティブなものが多いです。だから私は大学に来てから、授業がつまらなくて居眠りをしたことはまた1度もありません。またアメリカと日本の大学の一番の違いは、課題の量だと思います。だいたい1つの授業に対して、週に「最低」10時間の勉強が要求されています。普通1学期4教科履修するので、毎日「授業外に」6時間くらい勉強する計算になります(授業は各クラス週に150分)。私は毎日10時間近く勉強しているので、今の生活のイメージとしては、日本の大学受験生と同じくらいの勉強量だと思います。テスト前になると、食事やシャワーの時間をカットしたり、大学内の図書館に寝泊まりして勉強する人もたくさんいます。なぜアメリカ人の学生がそれだけ必死で勉強するかというと、単位を落とすと退学になってしまうからです。日本だと単位を落とすことが当たり前のようになってしまっていますが、アメリカの大学には「留年」という概念が存在

せず、そのまま退学ということになります。毎日の宿題は、私がつとっている人文社会学系のクラスではリーディングやエッセイ等のライティングが多いです。学期末になるとチームプロジェクトやリサーチなどの課題も出るので、創造力や批判的思考が求められることが多いです。毎日勉強漬けでしんどくなることもありますが、自分の意思で選んだクラスなので、頑張ることができます。

3. 本校の後輩たちや、入学を希望している中学生たちへのメッセージ

私が後輩たちに一番伝えたいことは、「どこの大学に行くか。どこの国で学ぶか。」ではなくて「なぜ大学に行くのか。そこで何をしたいのか」を考えて欲しいということです。自分の目的を先に見つけてから、それを達成しやすい環境を探してみてください。もしかしたら、「大学に行かない」という答えにたどり着くかもしれません。4年間というのは人生の中でもすごく貴重な時間ですし、大学の学費は高いです。自分で学費を払うならまだしも、そのリソースを生かすも殺すも、全て自分の行動次第です。極論から言えば、真つ当な理由がないなら大学は行かなくて良いと本気で思います。「でも大学に行かないと就職できない。日本の社会で受け入れられない。」そんな声が聞こえてきそうですが、就活のトレンドは間違いなく変わってきています。偏差値の高い大学に行けば自動的に幸せな人生が手に入るわけではありませんし、何も考えずに他の人と同じ行動をしていても安泰な生活を送れません。そもそも、大学の存在意義はなんだと思いますか？就職のための準備期間でしょうか？サークルに入って友達を作る場所でしょうか？時間の自由があるから旅行しまくる期間ですか？教科書に載っているような「正解」はありません。自分なりの回答を創ってください。

とは言え、こんなことを偉そうに書いている私も、自分がなぜ大学に通っているのかは、未だにはっきりと答えられません。でも100%自信を持って言い切れるのは、私は最高の進路選択をしたということです。今の大学生活がこれ以上ないくらい最高に楽しいです。でも高校3年生の7月頃には、日本の大学に行こうか本気で迷ったこともありました。可否の可能性が全く予測できないアメリカの受験が不安で、2週間近く眠れなかったこともありました。そんな時に考えたのは「高校卒業後に自分が一番幸せになれるのはどんな環境なのか」「そのためにどんな行動を取れば良いのか」という問いでした。その結果私がたどり着いた結論は、アメリカのリベラルアーツカレッジです。留学には向き不向きがあるので、決して万人にお勧めできるオプションではありません。しかし、高校卒業後の進路はみなさんが思っているより、ずっとずっと多様であるということを覚えておいてください。親や先生から言われたことをそのまま受け入れるのではなく、自分の頭で考えて、自分で道を作ってください。もし途中で「この道なんか違うな」と思ったら、その時に新しい道をつくり直せば良いと思います。今、自分が一番ワクワクできる進路を選んでください。